

第 1 期 pES club シナリオ 4

平成 15 年 1 月 26 日

虎の門病院分院 内科総合診療科

南郷 栄秀

sulzbürger@amy.hi-ho.ne.jp

あなたは、海老伝巢医科大学に通う医学部 5 年生です。父親は下町の開業医です。

去年のクリスマスに実家で家族と夕食を取っていると、天皇陛下が前立腺の検査入院の結果、前立腺癌であることが判明、年明け早々にも前立腺の手術をするというニュースがテレビで流れてきました。

子「天皇陛下が手術受けるんだって、大変だね」

父「癌かぁ、手術は誰がやるんだろう？」

子「東大病院でやるらしいよ」

父「宮内庁病院ではできないだろうし、当然だろうな」

子「受持医は研修医になるのかな？」

父「そんなわけないだろ。一番下でも、せいぜい助手だろうな。もちろん主治医は教授だろ？」

子「助手なんかじゃ普段ベッドサイドにいないから、点滴の針も刺せないんじゃない？そんな受け持ち嫌だな」

父「麻酔とかも麻酔科の教授かな？」

子「まさか、できんの？」

父「でも、下っ端にはやらせんだろ」

子「教授がやったとしても、そばに付き人がたくさん付くんだろ。な、事故が起こっても大丈夫なように」

父「事故は起きないよ。何しろ患者は天皇陛下だからな。危なくなったら絶対無理はしないよ。でも、本当は手術しなくてもいいんじゃないか？そういえば、昔何かの雑誌に前立腺癌はなってもそれでは死なないって書いてあったぞ」

子「そうなの？でも、癌だよ、死なないなんてことある？」

父「ゆっくり進行するから、見つかった時点で転移がなければ放っておいても大丈夫だって書いてあったし、今回は手術しようっていうんだから、進行癌ではないんだろ？」

子「本当？」

気になったあなたは、前立腺癌の予後が知りたいと思い、文献を探すことにしました。